

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第4週 (1/23-1/29) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		4週	3週	2週	1週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	5	5	3
インフルエンザ*		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千		葉		市		千葉県
		注意報	1/23-1/29	1/16-1/22	1/9-1/15	1/2-1/8	1/16-1/22	
			4週	3週	2週	1週	3週	
小児科	RSウイルス感染症		3	1	2	0	9	
	咽頭結膜熱		0	1	1	1	24	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		42	39	22	11	355	
	感染性胃腸炎		97	113	127	81	803	
	水痘		4	7	4	7	44	
	手足口病		1	0	2	2	20	
	伝染性紅斑		0	1	1	1	12	
	突発性発しん		8	6	7	4	55	
	百日咳		0	0	0	0	1	
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	2	
	流行性耳下腺炎		1	6	10	8	30	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	★★◎	1,213	878	452	211	8,148	
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	1	0	0	
	流行性角結膜炎		1	1	4	5	21	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0	
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0	
	マイコプラズマ肺炎		0	2	2	0	7	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(10件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査等	結核	男性	80歳代	病原体の検出等
結核	男性	30歳代	画像診断	結核	男性	80歳代	病原体等の検出等
結核	男性	30歳代	IGRA検査	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	70歳代	病原体の検出
結核	男性	50歳代	画像診断	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	80歳代	病原体の検出
結核	男性	70歳代	画像診断	梅毒	男性	70歳代	血清抗体の検出

\*第4週は、結核7件(17)、侵襲性肺炎球菌感染症2件(3)、梅毒1件(3)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

### 定点当たり報告数 第4週のコメント

<インフルエンザ>前週より更に増加し43.32となった。流行発生警報開始基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■  
 <インフルエンザ>

全国レベルの2017年第3週は、流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、宮崎県、愛知県、埼玉県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2017年第4週は、前週より更に増加し43.32となっています。流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、美浜区(57.3/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは9歳で最も多く発生報告がありました。この他、中央区(50.4/定点)、緑区(47.8/定点)、稲毛区(40.3/定点)、若葉区(32.0/定点)で流行発生警報開始基準値を上回っており、花見川区(22.3/定点)で流行発生注意報基準値を上回ったままとなっています。今シーズンである2016年第36週から2017年第4週までの累積報告数(n=3477)によると、性別では男性が50.6%(1760名)、女性が49.4%(1717名)で、一年代当たりの年齢階級別では7歳(6.2%:214名)、5歳(5.8%:200名)、8歳(5.4%:186名)の順に多くなっており、20歳未満は全体の71.2%、10歳未満は全体の44.1%となっています。

※2009-2010年のパンデミックは割愛しています。

